

(日置郡金峰町大野)

位置と環境

中尾遺跡は、馬の背状の小台地に立地しており、南北及び西方向に傾斜している。北側は頭無迫田遺跡へと続き、急激に谷へ落ちる地形であり、西方向への傾斜はやや緩やかである。

調査の経緯

中尾遺跡は、平成13年度と15年度の2回にわたり本調査を実施した。

調査面積は平成13年度が約18,000m²、平成15年度が約7,000m²であった。

遺構と遺物

平成13年度の調査においては、縄文時代草創期の遺構として集石5基・土坑25基を検出した。

集石は面的な広がりがあったが、掘り込みをもつものはみられなかった。

土坑25基のうち4基が落とし穴であった。全体的に検出面からの掘り込みは浅く、逆茂木痕を認められる落とし穴も検出された。また、連穴土坑については可能性のあるものまで含めると13基を検出し、連穴部はほとんど崩落していた。遺物は隆帯文土器及び石鎌・石斧・磨石などが出土した。

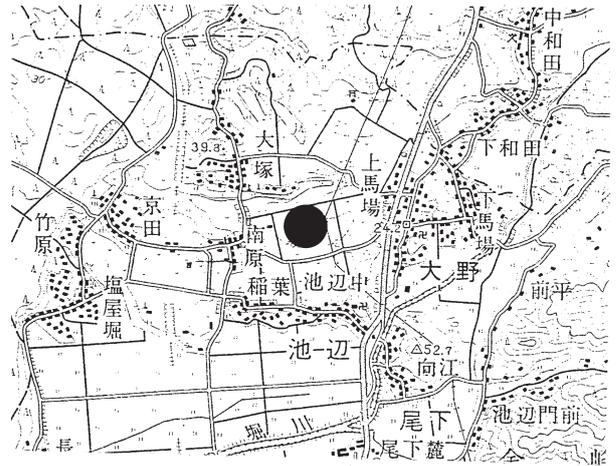
縄文時代早期の遺構検出はなかった。出土遺物は土器片等が少量出土した。

縄文時代晩期の遺構は、集石が2基・柱穴列26基を検出した。柱穴列は農業センター遺跡群の多くの遺跡で検出し、建物跡の可能性が考えられている。遺物は土器片等が少量出土した。

平成15年度の調査では、旧石器時代の落とし穴が1



写真1 縄文時代草創期の連穴土坑



第1図 中尾遺跡の位置

基検出された。草創期の落とし穴に比べると非常に深い形態であった。周辺からは検出していないが、道路を隔てた反対側の頭無迫田遺跡で同じような落とし穴を検出した。遺物の出土は見られなかった。

縄文時代草創期では、平成13年度に調査をした隣接地から集石5基を検出した。形態は掘りこみはないが、面的な広がりがあった。

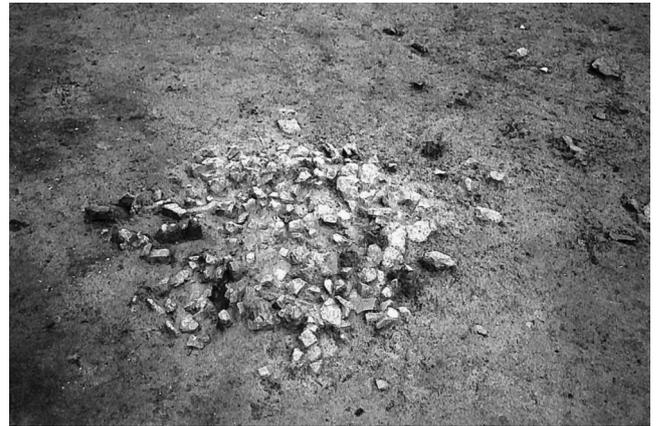


写真2 縄文時代草創期の集石遺構

縄文時代早期には、集石2基及び石器製作所跡ではないかと考えられる遺構も検出した。遺物は、押型文土器を中心に出土したが、土地改良などの開発により包含層が削平を受けているためか出土範囲が狭かった。

縄文時代晩期には、柱穴列4列と土器等が少量出土した。

中尾遺跡の中心は縄文時代草創期であるが、集石・連穴土坑といった調理施設や落とし穴という「食」に関する遺構を検出したことは意義が大きい。

(湯之前 尚)